



ルールマナーを守って荒川を楽しく利用しましょう

実は日本一だということ、ご存じでしたか？

日本で一番広い川幅を持っている川、それは「荒川」なのです。河川敷を含めた両岸の堤防間を川幅と定義されていることから、吉見町大和田と鴻巣市滝馬室の間（御成橋付近）が全国最長であり、その幅は実に2,537メートルにもなります。



「川幅日本一」の標柱

広大な河川敷は貴重な憩いの空間



荒川の広大な河川敷は、グラウンドや公園、ゴルフ場や農地など様々な利用されているほか、豊かな自然が残る貴重な場所でもあります。河川敷ではスポーツやレクリエーション、堤防ではサイクリングや散歩、水辺では釣りや水遊びなど、荒川における年間利用者数は2500万人以上（平成26年度河川水辺の国勢調査）にもなります。

 荒川上流河川事務所



漫画家 魔夜峰央先生

大ヒット映画『翔んで埼玉』の原作者、魔夜峰央先生とのコラボが実現しました。魔夜先生描き下ろしのキャラクターが荒川の今を紹介します。



荒川を気持ちよく利用してほしいから



流域の貴重なオープンスペースとして、皆様に荒川を利用していただく一方で、利用が増え、その利用形態が多様化する中において、楽しく快適に、そして安全に利用していただくためには、一人一人がお互いを気づかう気持ちが大切です。

誰もが気持ちよく荒川を楽しんでほしいから、皆様にはグッドマナーをお願いします。



お互いを気づかう「通ります」のひとことを

緑のリサイクル「荒川緑肥」



荒川上流河川事務所では、堤防の点検や堤体の保全のため、春から秋にかけて堤防の除草を行っています。

その刈草を有効利用する「緑のリサイクル事業」の推進として、刈草の堆肥化を行っています。

5月頃から除草を開始して、その刈草を細かく破碎し、水を加えて発酵させます。発酵を均一化するため定期的にかき混ぜることで、微生物の活動が活発化して、さらに発酵が進みます。発酵作業から3か月ほどしたら、粒の大きさをそろえるためにふるいにかけて堆肥が完成します。

完成した堆肥は「荒川緑肥」として毎年希望者に配布しています。



発酵を促すため重機でかき混ぜる様子

荒川緑肥 で 検索

